

眼科医会会員各位

京都府版ロービジョンケア紹介リーフレット「さくら」を
「見えにくい」「見えない」ことでお困りの方にお渡しください

京都ロービジョンネットワーク 代表
京都府眼科医会副会長
中路 裕

ロービジョンケアの重要性は近年広く認識されてきています。しかし、ロービジョンケアは医療だけでは実現できません。医療、教育、福祉等様々な分野の専門家との連携が必要です。連携に役立つのが「ロービジョンケア紹介リーフレット（スマートサイト*）」です。見えにくくて困っている患者さんに渡すだけで簡単に情報提供ができ、支援機関につなぐことができるツールです。京都ロービジョンネットワークは、2018年5月に京都府版ロービジョンケア紹介リーフレット「さくら」を作成・発行しましたので、ここに眼科医会会員の皆様にお知らせいたします。そして、「さくら」を利用して頂くようお願い申し上げます。

「さくら」はA4横型の3枚折りです（図1）。3枚折りの表紙には京都府のロービジョン児が描いたさくらの絵とロゴ、裏面には見えにくい時にできる具体的な工夫の例を載せています。内面左側には総合相談窓口の電話番号、右側には、眼科医や医療関係者向けに「さくら」の使用方法を記載しています。「さくら」の使用方法はとても簡単で、「“困ったときに利用してください”と書いて、患者さんにお渡しするだけ」です（図1矢印）。ロービジョンケアの説明はしなくても大丈夫です。忙しい外来の中でも「渡すだけ」でロービジョンケアの第一歩を患者さんに提供できます。リーフレットには、渡すための視機能の目安が記載されています。「視力が両眼とも0.4以下、視野が半分以下、まぶしくて困っている」などです（図1の矢頭）。あくまでも「目安」であり、困っているような人、どなたに渡していただいても構いません。

次に、京都ロービジョンネットワークの仕組み（図2）について説明します。まず、当事者（見えにくい人）が眼科に治療のためまたは相談のために受診されています。医療スタッフが「リーフレットさくら」をお渡しします（図2-①）。当事者が京都ロービジョンネットワークの相談窓口へ電話をします（図2-②）。必要なら相談員が紹介医

こんな道具や工夫があります

- 大きくする
例) 拡大鏡(ルーペ)、拡大読書器、iPad
- 見やすい配色を工夫する
例) 白は黒い茶碗によさう
- 音声を利用する
例) 音声図書、音声パソコン、音声時計、音声メモ
- 触覚を利用する
例) 触ってわかるように立体のしるしをつける
- 安全に外出する
例) 白杖、ガイドヘルパー
- 楽しく過ごす
例) スポーツ、俳句、サークル活動

「見えにくい」「見えない」ことでお困りの方へ

相談できる医療機関・福祉・教育施設のご案内

ロービジョンケア紹介リーフレット

発行
京都ロービジョンネットワーク
(京都府眼科医会 代表が主催)

表紙：公益社団法人日本眼病学会
裏表紙：公益社団法人日本眼病学会
協力：京都府 京都府

京都ロービジョンネットワーク 総合相談窓口
(社会福祉法人 京都ライトハウス内)

TEL 075-462-4400

京都ロービジョンネットワーク 後援

「見えにくい」「見えない」こと(ロービジョン)の相談、道具の相談、日常生活のアドバイスなどが受けられます。訪問による相談なども可能です。ご相談内容に応じて、適切な施設・団体をご紹介します。リーフレット「さくら」を見た、と、お電話を！ **相談は無料です。**

相談時間：月～金、9時～17時(土・日・祝日休み)

*丹後視力障害者福祉センター(北条)、京都視覚障害者支援センター(幸部)でも相談が可能です。あなたの地域の相談員を案内できます。

ロービジョンケア実施医療施設

お近くに相談できる医療施設があります。上記総合相談窓口までお問い合わせ下さい。

京都ロービジョンネットワーク(2017年4月設立)
事務局(京都ライトハウス内) 電話:075-462-0808 FAX:075-462-0885
構成団体:京都府眼科医会/社会福祉法人京都ライトハウス/
公益社団法人京都府視覚障害者協会/京都府立盲学校/京都府立視覚障害者福祉センター
社会福祉法人丹波視覚障害者福祉センター / 社会福祉法人京都府視覚障害者支援センター
公益社団法人関西盲点協会/京都府視覚障害者支援協議会

眼科医の方へ

このリーフレットは「見えにくい」「見えない」ことでお悩みの方が、その悩みに応じて、次のステップを積み重ねるように作成されました。以下のような方にお渡し下さい。

- 視力が両眼とも0.4以下。
- 視野が正常のおよそ半分以下。
- まぶしくて困っている。
- 目のことで学業、仕事、家事、育児などに不安や不自由がある。
- その他、見えにくい・見えないことで困っている。

「見えにくい」ことで困っているときに利用して下さい」とお伝えして下さい。

*リーフレット「さくら」の詳しい活用方法については、京都府眼科医会 IPFをご覧ください。
©2018年(株)さくら

図1 京都府版ロービジョンケア紹介リーフレット「さくら」 外面(上)、内面(下)

療機関に視機能等の問い合わせをすることがあります。次に相談員が福祉団体、教育機関、訓練機関、ロービジョンケアを実施している医療施設や患者団体等々と連携をとる事により、当事者へ情報が提供され、連携・支援が行われることとなります（図2-③）。その際に相談員、歩行訓練士、眼科医、視能訓練士等が関与します。支援の結果は相談員から紹介眼科医にも報告をいたします。このように「さくら」を用いて医療機関をロービジョンケアの出発点としたいと考えています。医療関係者の方へのお願いは「さくらを渡す」という役割を担っていただきたいことです（図2-①）。どうぞよろしくお願いいたします。

京都ロービジョンネットワークでは、昨年医療機関に対するアンケートを実施し、京都府におけるロービジョンケア実施医療施設の一覧（別紙）を作成しました。また、教育福祉関係機関一覧（別紙）も作成しました。これらを京都ロービジョンネットワークの事務局・構成団体、医療機関、支援団体等で共有し、連携に役立てたいと考えています。なお、①先生方が直接これらの医療機関・施設等に患者さんを紹介される際には必ずご自身で各医療機関にロービジョンケアに対応可能かどうかを問い合わせしてから紹介すること、②この二つの一覧は患者さんが見てもわかりづらいため医療機関での紹介するための参考としてご利用すること、をお願いします。

そして、先生方がもし可能なら、患者さんに「さくら」をお渡した時に、京都ロービジョンネットワーク総合相談窓口まで患者さんのお名前と連絡先を伝えていただくと助かります（図3）。それは患者さんからネットワークに連絡を入れるというのは、大変ハードルが高いからです。ご連絡いただければ、相談員から患者さんに連絡することが出来るので確実に支援につながられます。また、患者さんの情報（視機能）をロービジョンネットワークへお知らせいただくと大変助かります。視力、視野の結果だけでも結構です。どのような情報を支援者へ伝えればよいか迷うときには、京都ライトハウス宛ての支援依頼書（ネットワークHPからダウンロード可）を利用していただいても結構です。

最後になりましたが、ロービジョンの方へ有用な情報や支援がスムーズに「つながる」よう、また、眼科医がスムーズにロービジョンケアへ「つなぐ」ことができるよう、ご理解・ご協力・ご支援をお願い申し上げます。

★ 京都ロービジョンネットワークのHP <https://kyoto-lowvision.net/> ★

*日本眼科医会は「スマートサイト」を「ロービジョンケア紹介リーフレット」と表現することを推奨していますので京都府版でもそれに倣います。

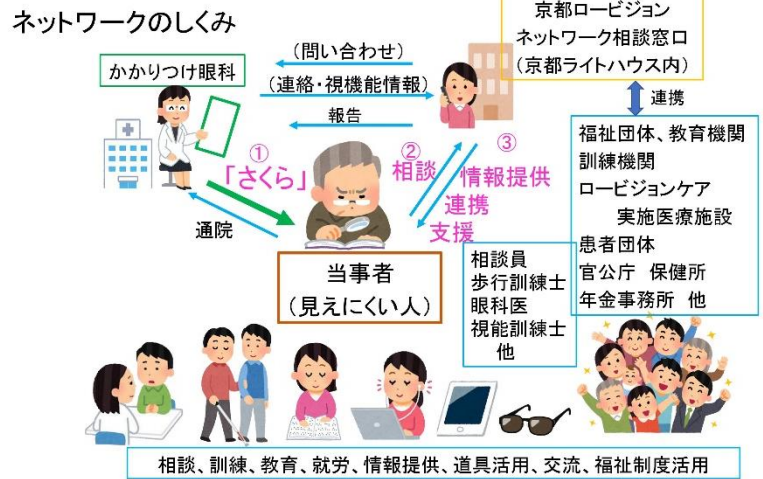


図2 京都ロービジョンネットワークの仕組み

もし、もしも可能なら……

ご本人の了解の上、
① 医療機関からロービジョンネットワーク事務局へお電話ください。
ご本人の連絡先等をお知らせください。
事務局から当事者へ連絡することで確実な支援につながります。



② 視機能の情報をお知らせください。
→支援依頼書の利用も可能です。



図3 もし、可能なら（お願い）